# ■ 第 150 回あすなろ句会得点取得句と特選句句評 ■■

2024 年 4 月　　投句者　8 名　投句数　24 句

## 高得点句

| | | | |
|---|---|---|---|
| 天 | あんぱんに空洞のあり花の冷え | 智香子 | 7 |
| 地 | 花木五倍子咲かせてみたき字面かな | きらら | 6 |
| 地 | 真直ぐにチューリップ咲く案ずるな | 愚雪 | 6 |

## 他の投句作品

- 青き踏む園児揃ひの青帽子　雨音
- 寛解の友と一献春動く　歩存
- 消えぬまに願いひとつの春の虹　かつら
- 土筆生う袴姿の女学生　光月
- さあ参上と戸を打ち吼える春颯　石敬

## 特選句短評

**・花木五倍子咲かせてみたき字面かな　（きらら）**

（歩存）私にはない感性（ものの見方）であり、逆に“これが俳句になるの？”という疑問もあり、話題提供で特選としました。まず花木五倍子が読めなかった。また、“字面かな”の意味する処も最初分からなかったが漢字表記の“五倍”を使い、咲かせてみたいと分かった。私には思いがけない発想ですが、こういう俳句の作り方はあるのでしょうかね？

**・若桜ピンクの木肌誇らしげ　（光月）**

（かつら）ソメイヨシノは寿命の 60 年を迎え、新しい桜、ジンダイアケボノに植え替えられています。その、若桜をピンクとその木肌が生き生きしていて誇らしげと、植えられたばかりの若い桜を詠んだ、見事な一句です。

**・蝌蚪光る波紋を刻む池の淵　（石敬）**

（雨音）同じような景を詠んでしまいそうな難しい季語「蝌蚪」の生態とその景を、言葉を選んできれいに詠まれています。用いる言葉の勉強になりました。

**・あんぱんに空洞のあり花の冷え　（智香子）**

（石敬）対比にしゃれた諧謔を感じます。餡子たっぷりかと千切って見るとぽっかりと大きな鬆が入っていた時の、あの何とも言えぬ寂寥感は、どこか花曇りの続く今日この頃を思わせます。

（きらら）あるある!そう言うこと!同感です。季語“花の冷え”に、そうきたか!と納得です。桜の塩漬けが添えられた某パン屋さんの桜あんぱんに違いなく?（勝手な過去の経験より）、生活をこんな風に切り取ることもできる俳句って楽しいなと思いました。

（愚雪）あんぱんに空洞を見つけて少しがっかりする心の動きと、華やぐ心をはぐらかされた花冷えの午後の空気感が、一つの微妙にリアルな世界を表現している、と変な理屈をつけなくともよし。「アンパンと花冷えとを取り合わせたるいとをかし」

・真直ぐにチューリップ咲く案ずるな　（愚雪）

（光月）チューリップは、スッキリと伸び、パット咲きます。それを見て、少しモヤモヤした不安を振り切ったのでしょう。「案ずるな」が強く響いて良いと思います。

・さあ参上と戸を打ち吼える春颯　（石敬）

（智香子）参上は目上の人のところへ行くこと。天気予報で我々は嵐が来ることは承知している。春颯にしてみれば、これから参りますぞと意気込んでいる。面白い見方に納得。

以上